

浅間山の火山活動解説資料（令和元年5月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山性地震は概ねやや少ない状態で、浅間山の西側の膨張を示すと考えられる地殻変動もみられていません。また、山頂火口からの噴煙や火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も少ない状態となっています。火口から500mの範囲に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火が発生する可能性はあるものの、それを上回る規模の噴火の可能性は低い状態です。火山灰噴出や火山ガス等に注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴煙など表面現象の状況（図1、図3、図4- 、図5- ）
山頂火口からの噴煙は白色で、火口縁上概ね200m以下と少ない状態で経過しています。27日に陸上自衛隊の協力を得て実施した上空からの観測では、火口底には黄白色の昇華物が引き続きみられ、火口底や火口周辺に新たな噴出物の形跡は認められませんでした。赤外熱映像装置による観測では、火口底中央部の火孔付近と西側領域で温度が高い領域が認められます。
- ・地震や微動の発生状況（図4- ~ 、図5- ~ 、図6、図7、図11）
山頂直下のごく浅い所を震源とする体に感じない火山性地震は、2018年6月頃から増減を繰り返していますが、概ねやや少ない状態で経過しています。主に発生しているのは、普段からよく見られているBL型地震です。また、火山活動が活発化しているときに発生が増加するBH型地震は、少ない状態で推移しています。火山性地震の震源は、山頂直下の従来からみられているところに分布し、特段の変化は認められません。火山性微動は、少ない状態で経過しています。
- ・地殻変動の状況（図4- 、図5- 、図8~10）
傾斜計及びGNSS連続観測では、特段の変化はみられていません。
- ・火山ガスの状況（図4- 、図5- ）
火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、9日の観測では、1日あたり70トン（4月16日：数十トン以下/日）と少ない状態が続いています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和元年6月分）は令和元年7月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、関東地方整備局、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び長野県のデータも利用して作成しています。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

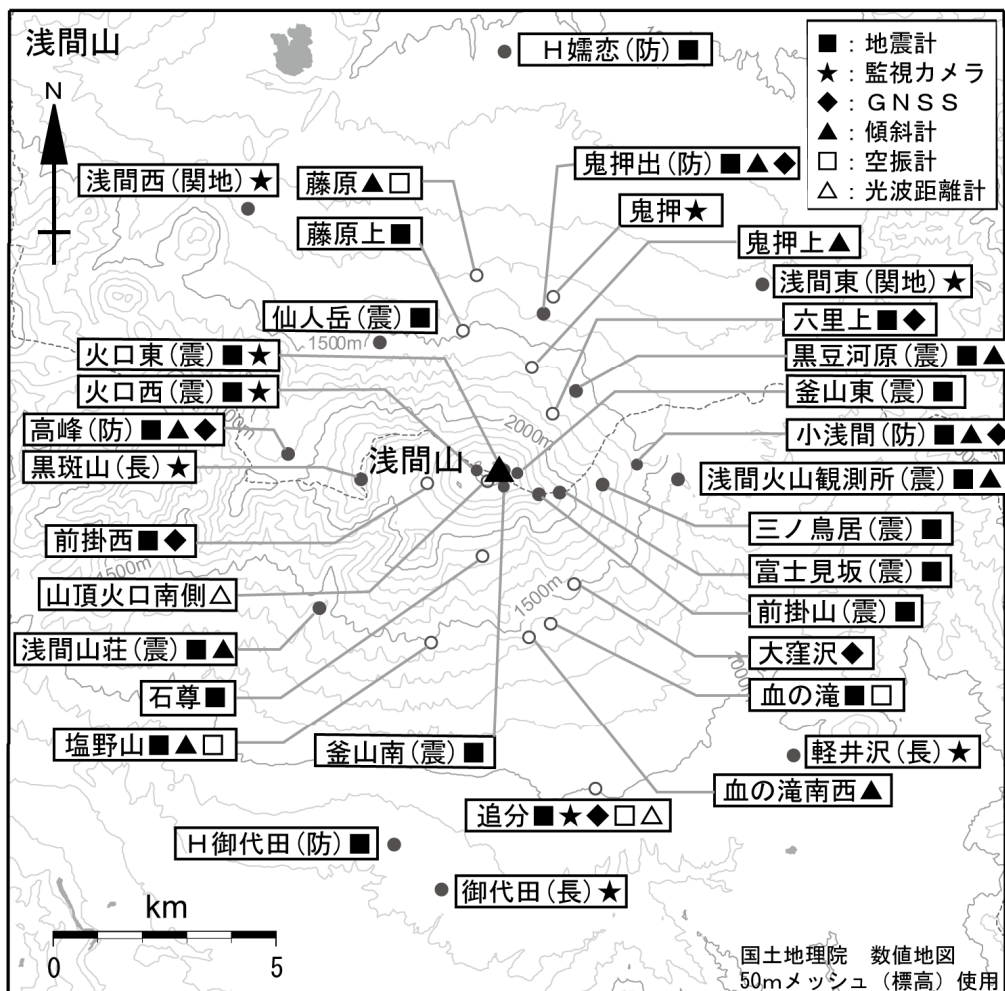
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



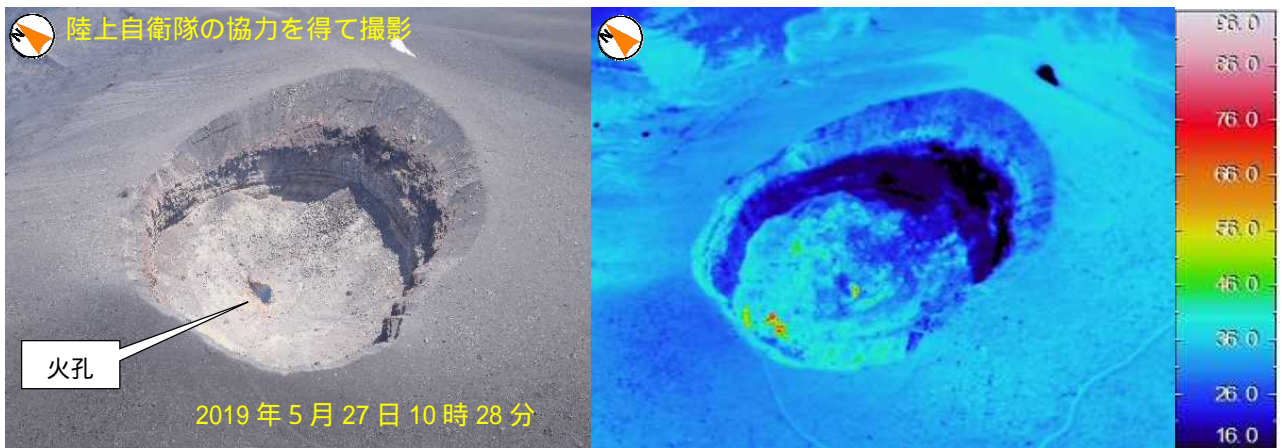
図1 浅間山 山頂部の状況

（左：鬼押監視カメラ（5月7日） 右：黒斑山監視カメラ（長野県）（5月16日））
 ・今期間、白色の噴煙が火口縁上概ね200m以下で経過しました。

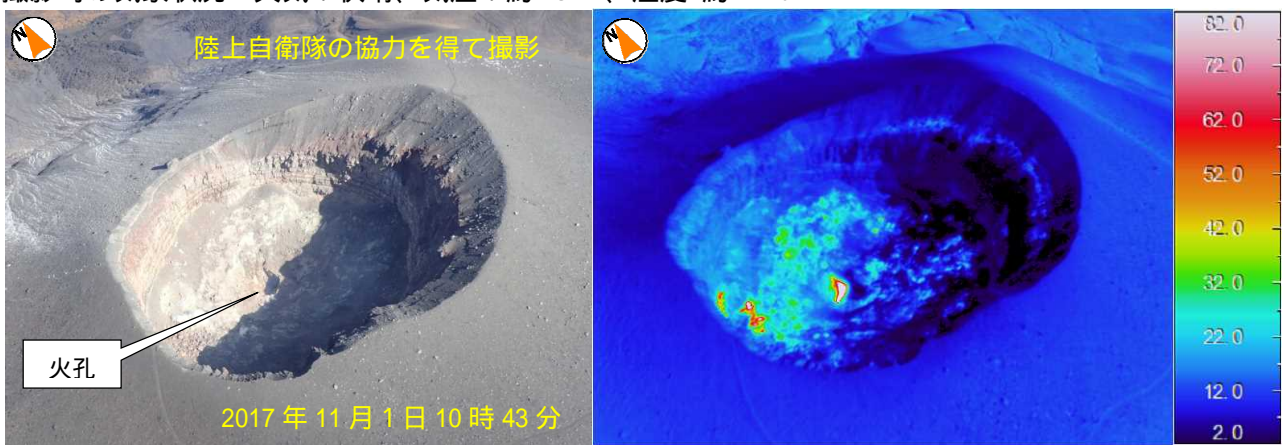


小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（震）：東京大学地震研究所、
 （関東地）：関東地方整備局、（長）：長野県

図2 浅間山 観測点配置図



山頂火口の南西 高度約3,200mから撮影
 撮影時の気象状況 天気：快晴、気温：約 8℃、湿度 約 44%



山頂火口の南西 高度約3,000mから撮影
 撮影時の気象状況 天気：晴、気温：約 4℃、湿度 3%

図3 浅間山 火口付近の状況（上段：2019年5月27日、下段：2017年11月1日）

- ・27日に陸上自衛隊の協力を得て実施した上空からの観測では、火口底には黄白色の昇華物が引き続きみられ、火口底や火口周辺に新たな噴出物の形跡は認められませんでした。
- ・赤外熱映像装置による観測では、火口底中央部の火口付近と西側領域で温度が高い領域が認められます。

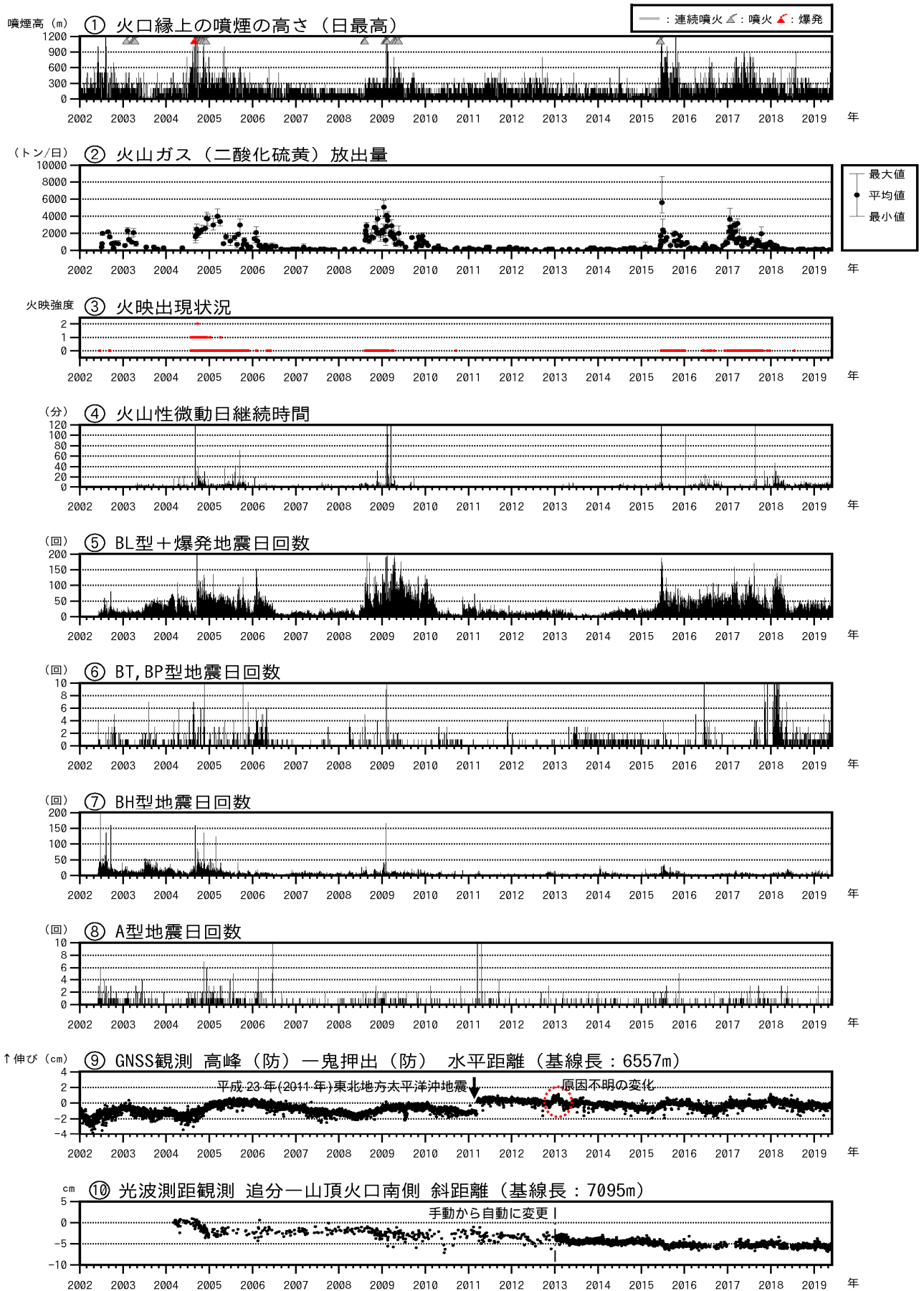


図4 浅間山 火山活動経過図（2002年1月1日～2019年5月31日）

図の説明は次ページに掲載しています。

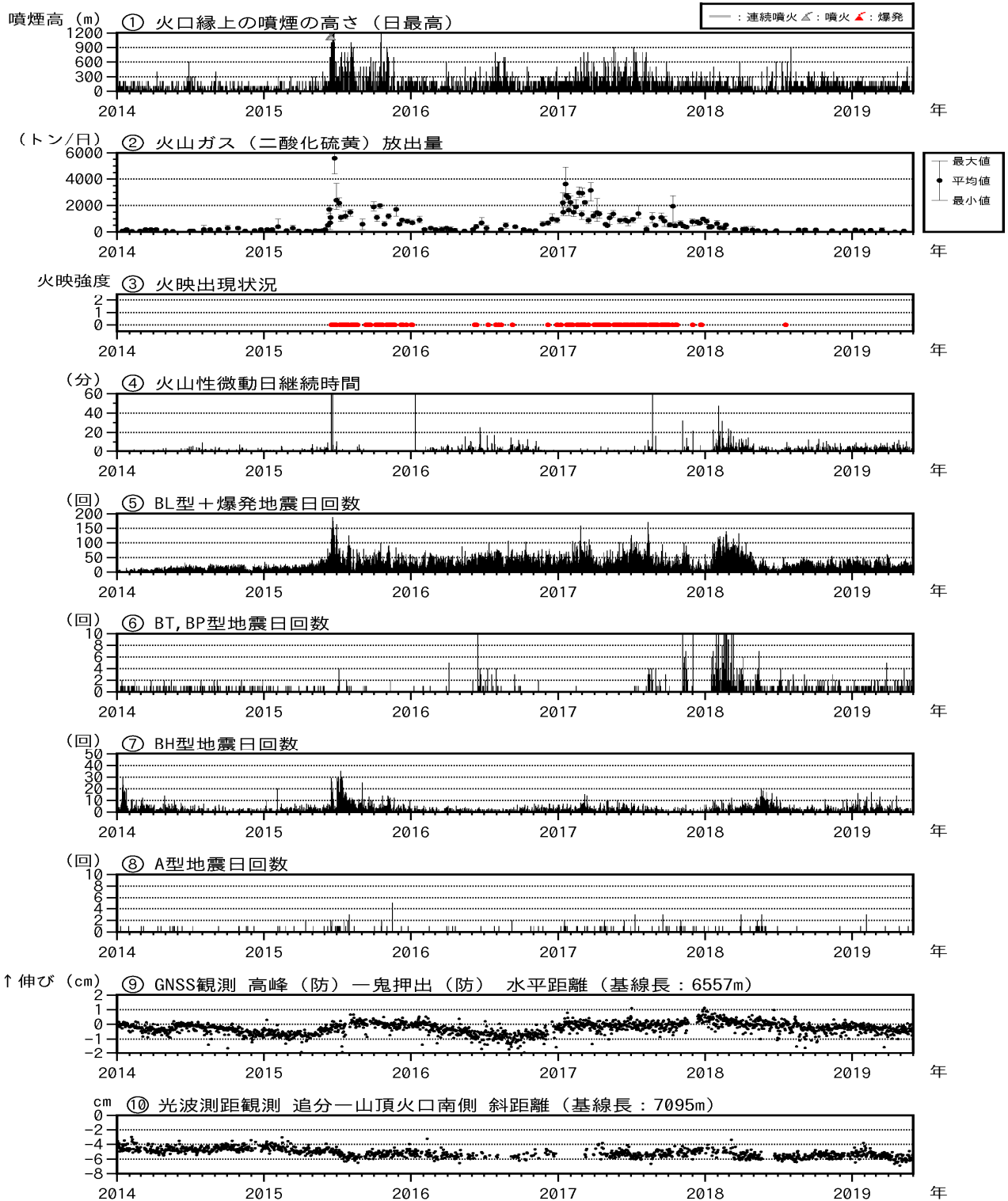


図5 浅間山 最近の火山活動経過図（2014年1月1日～2019年5月31日）

図4及び図5の説明

計数基準は石尊観測点で最大振幅0.1 μ m以上、S-P時間3秒、火山性地震の種類は図10のとおりです。

図4、図5 国立研究開発法人産業技術総合研究所及び東京大学による観測結果が含まれています。

図4、図5 赤印は火映を示します。強度については、以下のとおりです。

- 0：肉眼では確認できず、高感度の監視カメラでのみ確認できる程度
- 1：肉眼でようやく認められる程度
- 2：肉眼で明らかに認められる程度
- 3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度

図4、図5 2012年7月31日まで 気象庁の高峰-鬼押出観測点間の基線長（基線長7417m）

2012年8月1日以降 防災科学技術研究所の高峰-鬼押出観測点間の基線長。

2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています。

（防）：国立研究開発法人防災科学技術研究所

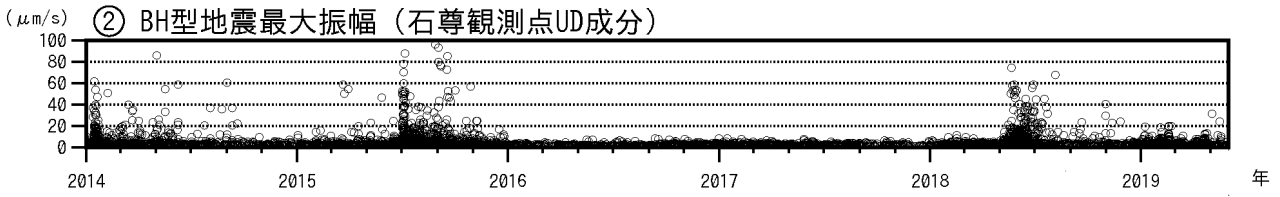
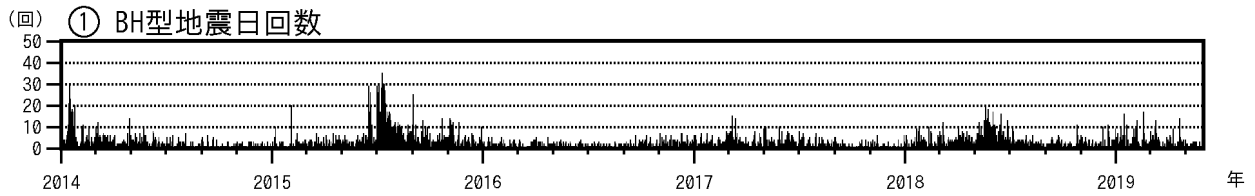
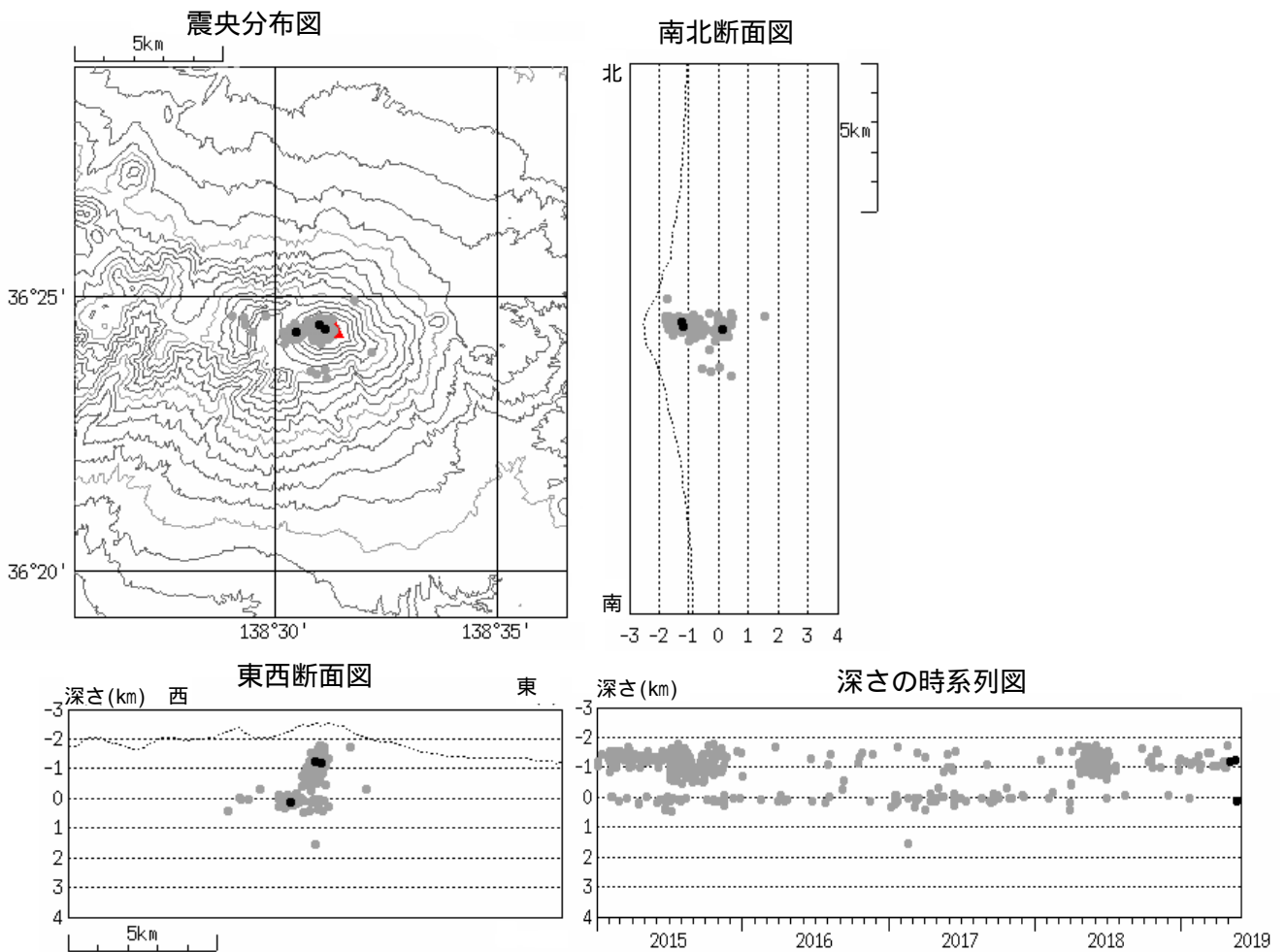


図6 浅間山 BH型地震の日別回数とその最大振幅（2014年1月1日～2019年5月31日）
BH型地震は、少ない状態で推移しています。



：2015年1月1日～2019年4月30日 ：2019年5月1日～5月31日

図7 浅間山 震源分布図（2015年1月1日～2019年5月31日）

火山性地震は、山頂直下の従来からみられているところに分布し、特段の変化は認められません。

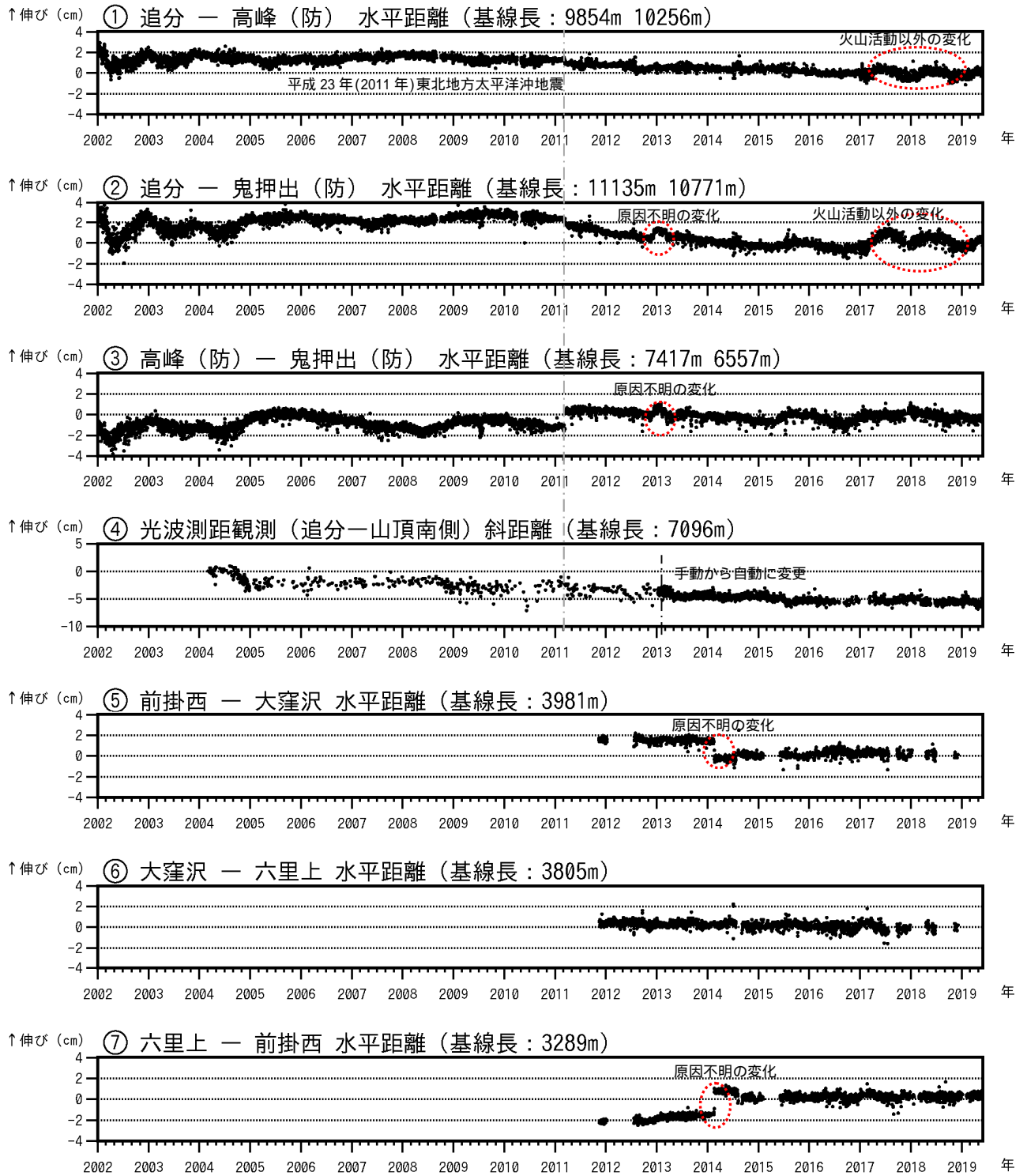


図 8 - 1 浅間山 GNSS連続観測及び光波測距観測の結果(2002年1月1日～2019年5月31日)

2010年10月及び2016年1月に、解析方法を改良しています。

(防): 国立研究開発法人防災科学技術研究所

～ は図9の ～ にそれぞれ対応しています。

追分観測点は、2016年12月に移設しています。

2002年1月1日～2012年7月31日 気象庁の高峰 - 鬼押出観測点間の水平距離。

2012年8月1日～ 防災科学技術研究所の高峰 - 鬼押出観測点間の水平距離。

～ の空白部分は欠測を示します。

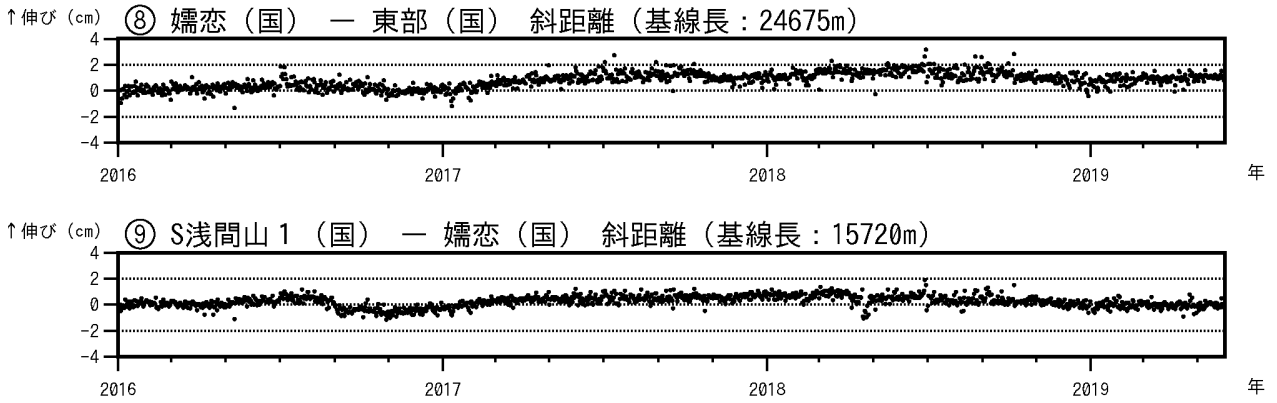


図8 - 2 浅間山 GNSS 連続観測結果(2016年1月1日~2019年5月31日)

(国): 国土地理院

- 、 は図9の にそれぞれ対応しています。
- 、 の空白部分は欠測を示します。

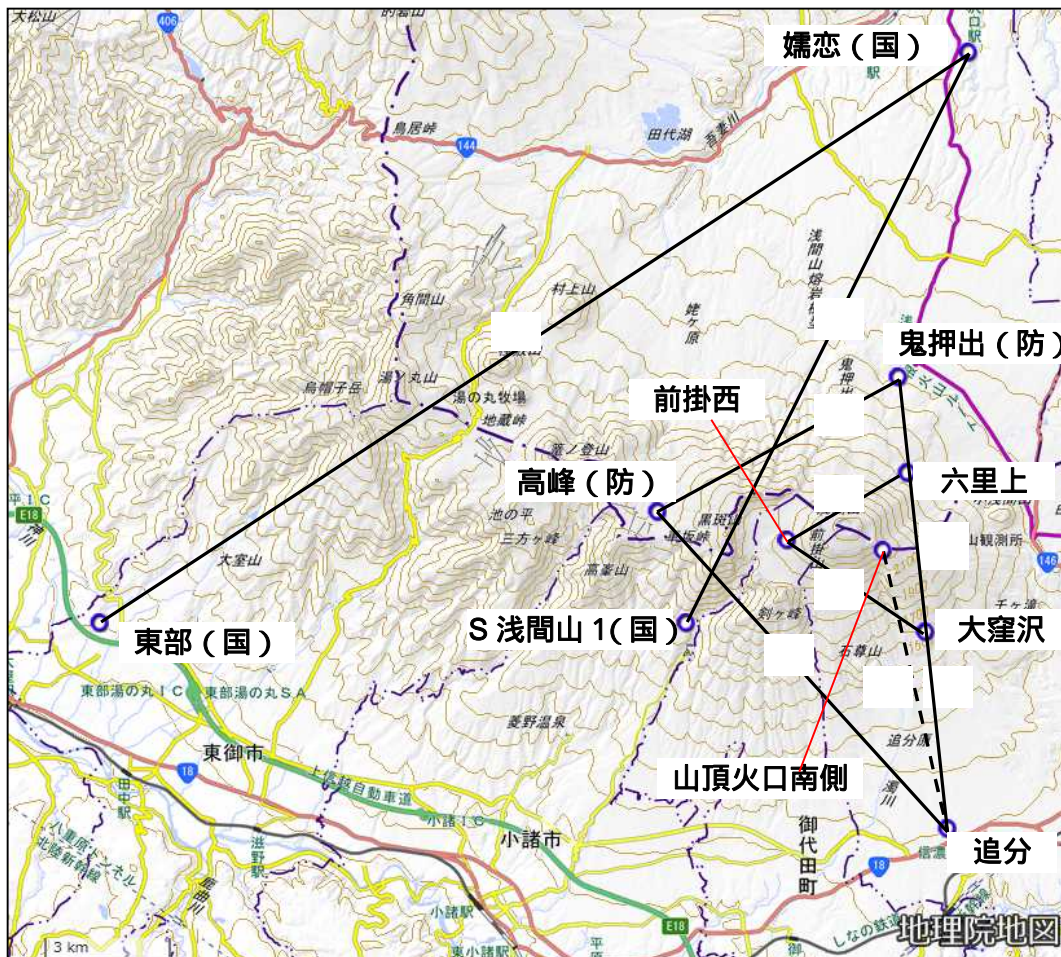


図9 浅間山 地殻変動連続観測点配置図

(防): 国立研究開発法人防災科学技術研究所、(国): 国土地理院

GNSS 基線 は図4、図5の に対応しています。また、GNSS 基線 ~ 及び ~ は図8の ~ 及び ~ にそれぞれ対応しています。

光波測距測線 は図4、図5の 、図8の に対応しています。

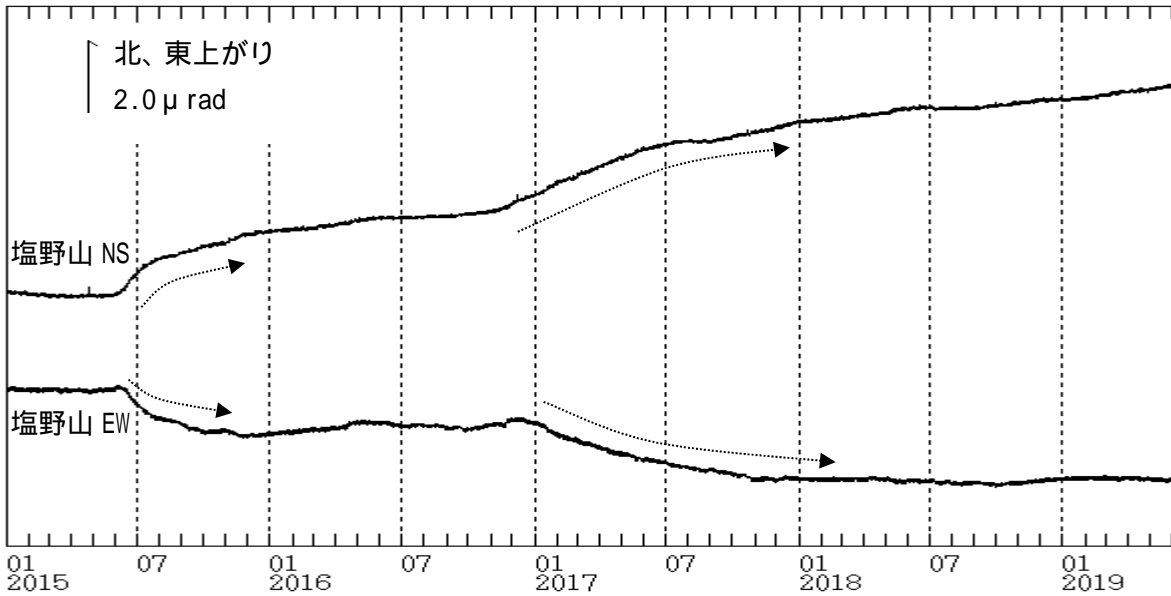
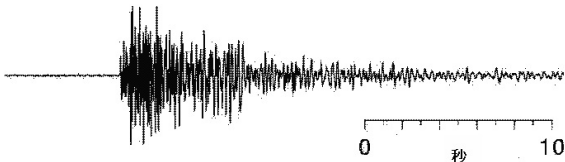


図 10 浅間山 塩野山観測点における傾斜データ（2015年1月1日～2019年5月31日）

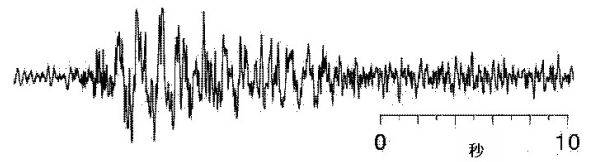
* データは時間平均値を使用しており、2015年6月までの変化が小さくなるように補正しています。

- ・ 2015年6月上旬頃から山頂西側のやや深いところが膨張源と考えられる緩やかな変化がみられました。
- ・ 2016年12月以降、2015年と同様の変化がみられていましたが、2018年1月頃から変化はほぼ停滞しています。

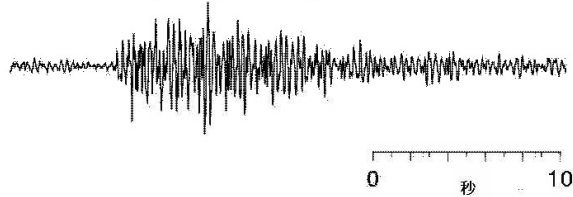
A型地震：P,S相が明瞭で卓越周波数は10Hz前後と高周波の地震



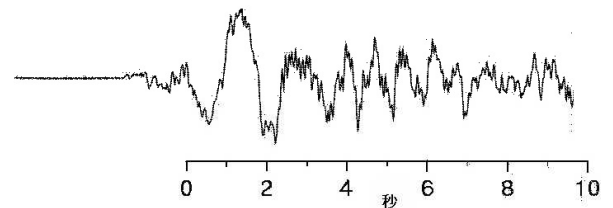
BL型地震：P,S相が不明瞭で卓越周波数が約3Hz以下の地震



BH型地震：S相が不明瞭で卓越周波数が約3Hz以上の地震



EX型地震(爆発型)：爆発的噴火に伴って発生する地震



BT型地震：一定周波数の振動がゆっくりと減衰していく地震

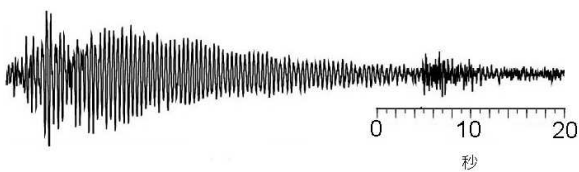


図 11 浅間山 主な火山性地震の特徴と波形例